

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11807

研究課題名(和文)ケガレ キヨメ体制の地域間比較とその今日的展開に関する基礎的研究

研究課題名(英文)A Basic Comparative research for the Traditional Pollution-Purification System in the Local Societies and its Contemporary Transformation

研究代表者

友常 勉 (Tomotsune, Tsutomu)

東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授

研究者番号：20513261

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本の被差別部落と南アジアのダリトの双方における皮革産業をベースにした共同体ネットワークを「ケガレ キヨメ体制」として把握し、それが現代の被差別民における社会的ネットワークの展開にどのような影響を残しているのかを課題とする本研究は、日本とインドにおけるフィールドリサーチと文献調査、商品制社会の理論的考察、双方の研究者・活動家たちとのワークショップにおける対話によって、所定の目的をほぼ達成することができた。具体的には、日本国内の被差別部落のリサーチ、インドにおける皮革産業・靴産業の調査、『資本論』と商品制社会についてのシンポジウムの遂行である。さらにその成果は、日英両言語の論文として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の被差別部落においては、近代化・現代化過程で、前近代社会の身分的職能的なケガレ キヨメの慣習は漸次共同体の心的ネットワークへと変容した。それは文化資本に結実し、今日の被差別部落の人的経済的なネットワークとして機能している。南アジアのダリトにおいては、皮革産業・靴産業は依然としてチャマル身分を中心に担われており、その今日的機能は明らかである。こうして、前近代的な身分的職能的な慣習が文化資本のうちに継承されている事実を明らかにした。南アジアにおけるカースト的資本主義の現存を参照すれば、本研究は、より一般的な人種的カースト的資本主義の理論化に向けた基礎作業を果たすことができたといえる。

研究成果の概要(英文)：The research on a meaning of Pollution-Purification (Kegare-Kiyome) system in the present time and its comparative investigation concluded that pollution-purification system derived from the premodern status-professional regime, based on the field research in leather and shoes industry both in Japan and South Asia, transformed into cultural capital of the community-network in those areas. In order to demonstrate the outcome, the research also realized workshops by Japan-India scholars and activists, and the symposium for the purpose of theoretical pursuit of capitalism and commodity. The research published the achievements both in Japanese and English papers.

研究分野：歴史学、思想史

キーワード：ケガレ キヨメ 皮革産業 被差別部落 ダリト 人種的資本主義

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は2010年・2012年に基盤研究(C)「伝統文化の現代化と地域文化の創造に関する研究」において、被差別部落の伝統芸能とスペイン・バスク地方の被差別民アゴテ(バスク語読みではアゴト)との比較研究を行い、被差別民の職能的慣習が文化資本として現代的機能を有することを論じた。これを踏まえて本科研では、被差別部落と南アジアのダリト身分の身分的職能的ネットワークが現代において共同体の再生産機能を果たしていることに注目し、とりわけ両地域の皮革産業・靴産業に焦点をあて、さらにその職能的原型を「ケガレ キヨメ体制」と把握し、その比較研究をめざした。前近代の身分制とヒンドゥー・カースト主義との相違はあり、また、差別の現代的形態を考えることも重要であるが、本研究では被差別民の文化資本の形成・流通過程についての研究とした。とはいえそれは資本主義が前近代的身分制やカースト制をどのように組み込んでいるかについて解明することでもあるという問題意識を有していた。

## 2. 研究の目的

本研究では、職能的構造的原型を「ケガレ キヨメ体制」として把握し、被差別部落と南アジアのダリト身分において、身分的職能的ネットワークが共同体の再生産機能としていかに機能しているかの解明をめざした。その目的にもとづいて、両地域の皮革産業・靴産業に焦点をあて、その比較研究を遂行した。加えて現代資本主義が前近代的身分制やカースト制をどのように組み込んでいるかという問いに答えることも、本研究の目的であった。

## 3. 研究の方法

本研究の方法論は、申請者のディシプリンである歴史学、思想史、地域研究にもとづいて、地域フィールドワークと文献調査によって遂行された。

まず、フィールドリサーチは、インドの皮革カーストであるチャマール(ジャターブ)身分の歴史と現在の皮革産業、カースト・コミュニティの調査を行った。これを踏まえて、インドから二人のダリト研究者・ダリト解放運動の活動家を呼び、2019年9月21日に、国際ワークショップを開催した。

商品制社会とグローバル資本主義の起源と在地慣行の商品化については、シンポジウム「『マルクスと商品語』を読む」によって遂行した。

日本国内調査については、徳島県の芸能調査、三重県内の被差別部落での聞き取り調査、文献調査、大阪府和泉市内の部落を舞台にした達田良善日記調査を遂行した。さらに、被差別部落出身者の北米移民についての調査によって、文化資本としての被差別民のネットワークが移民先でも機能していることを確認することができた。

## 4. 研究成果

研究計画の初年は、商品制社会とグローバル資本主義の起源と在地慣行の商品化を究明するためのシンポジウム「『マルクスと商品語』を読む」を2018年6月30日に東京外国語大学で開催した。ここでは著者である井上康・崎山政毅の両氏のほか、浅川雅己(経済学)、大橋完太郎(哲学)、真島一郎(文化人類学)、中村勝己(イタリア思想史、社会運動史)による合評会を通して、商品・商品制社会の成立についての理論的考察を行った。その成果は、書評論文「商品の反ラプソディックな実在論とラプソディックな革命論」としてまとめた(友常『夢と爆弾 サバルタンの表現と闘争』航思社、2019年に収録)。

これによって、ケガレ慣行と商品化の原理的關係、およびサバルタン階級との関係についての理論的解明を進めることができた。つづいて、2018年8月6日から18日にかけて、インド・デリーおよびアグラにおいて、インドの皮革カーストであるチャマール(ジャターブ)身分の歴史と現在の皮革産業、カースト・コミュニティの調査を行った。その成果は「インド・アグラの靴・履物産業とチャマール 付・チャマール身分に対する差別と National Dalit Movement for Justice の活動、ラフル・シン氏インタビュー」にまとめた(東日本部落解放研究所『明日を拓く』119号、2019年3月)。これによって、インドのケガレ キヨメ体制から展開した皮革カーストの歴史・現在についての概要を把握し、日本のカーストと比較検討するための準備作業を進めることができた。また、移民・マイノリティの慣行維持という観点から、イーストロンドン大学フィル・コーエン名誉教授との共同研究という点では、日本女子大学で行われたシンポジウム「2020年オリンピック・レガシー再考」(2018年3月12日)にコメンテーターとして参加し、計画の目的を果たすことができた。

研究計画の2年目は、前年のインド・アグラ調査を踏まえて、インドから二人のダリト研究者・ダリト解放運動の活動家を呼び、2019年9月21日に、国際ワークショップを開催した

("Dalits in India: Historical Reflections and Challenges")。ワークショップは、東京外国語大学 FINDAS と共催で行った (FINDAS Joint International Workshop with Scientific Research Project for The Comparative Study between South Asia and Japan with focusing on the Customs of Pollution-Purification in Local Societies and its Preset (Tomotsune, Tsutomu))。報告は、Shahana Bhattacharya (University of Delhi) および Rahul Singh (National Program Coordinator, National Dalit Movement for Justice (NDMJ)-NCDHR、

さらに申請者である友常による報告 Examining Stigmatization of Leather Industry: By Focusing on the Labor Forms of Dalit and Buraku を行った。このワークショップは、Findas International Conference Series 4: Examining Stigmatization of Leather Industry: By Focusing on the Labor Forms of Dalits and Buraku, (4), 3-16, として発行した。また、商品制と労働形態についての研究は、「解説 浜矩子によるラディカルなマルクスの読みなおし」(浜矩子『強欲「奴隷国家」からの脱却』(講談社 2020 年 3 月) 所収) として発表した。国内調査については徳島県徳島市の「阿波木偶箱廻し保存会」において聞き取り・資料調査を行い、被差別民の芸能と生業との関係について調査を進めることができた(2020 年 3 月 14 日)。

2020 年度は、国内調査とインドにおける調査にもとづいて、報告書の作成を行う予定であった。しかし、COVID-19 の感染拡大により、インド調査は不可能となった。また、国内調査も制限された。そうしたなかで、文献調査と共同研究においては成果をあげることができた。それらは以下のとおりである。「生政治と同和行政・人権行政」(「部落解放研究」214 号、2021 年 3 月、4 - 25 頁) および同誌に掲載されたラフル・シン「COVID-19 がインドのダリトに与えた影響 カーストに基づく暴力と司法へのアクセス」、「達田良善日記」の解説である(「靖国・天皇制問題情報センター通信」197, 199, 200 号)。また、国内調査については、三重県内の被差別部落での聞き取り調査を実行し、当地での研究会に参加することができた。あわせて県内の部落史についての文献調査を行うことができた。この調査と和泉市内の部落を舞台にした達田良善日記調査をあわせて、被差別部落の生業とケガレ キヨメ体制が近代の部落においてはたしている役割についての整理をすすめることができた。これらは単著『夢と爆弾 サバルタンの表現と闘争』(航思社 2019 年) 収録論文「サバルタンと宗教」に反映されている。さらに、被差別部落出身者の北米移民について、論考「部落出身者のハワイ・北米移民、部落解放」797 号(21-31, 2020 年) また、招待講演として、「日本社会の地域差別」日本社会におけるサバルタン研究：東アジアの疎通と相生、国際会議、韓国外国語大学校(オンライン開催、2021 年) を行った。

2021 年度も、COVID-19 のために、予定していたインド出張は実現できなかった。ただし、これまでの収集資料を用いて、ケガレ キヨメ体制の比較研究のために、近世・近代の旦那場制度にかかわる論考を完成させた。加えて、Dalit Symposium (大東文化大学 2021 年 12 月 4 日) 「資本論研究と東アジア」ワークショップ開催(東アジア日本研究者協議会国際学術大会・韓国 2021 年 11 月 27 日) の二つの報告と、Laziness, Sabotage, and Outlaws: Hisabetuburaku in Post-Subaltern Studies, FINDAS Proceeding papers, pp.11-14 (2022 年 4 月刊行) 「狭山事件と狭山裁判闘争の 60 年」、講座 近現代の部落問題 第三巻 現代の部落問題, 33-66, 2022 年 3 月および「部落解放にかかわる 5 つの論点」、福音と世界, 77 巻 3 号の 3 つの論考によって、科研による研究会の最終報告に向けた準備を整えることができた。

具体的な刊行物は以下の通りである。

商品の反ラブソディックな実在論とラブソディックな革命論 井上康・崎山政毅『マルクスと商品語』, 情況, 第 5 期第 2 巻 3 号, 180-195, 2019 年

Making Heterogeneous Space: Land Development and the Proletarianization of Urban Underclass in Post War Japan, International Journal of Japanese Sociology, 28(1), 1-16, 2019

インド・アグラの靴・履物産業とチャマール [付] チャマール身分に対する差別と National Dalit Movement for Justice の活動 ラフル・シン氏インタビュー, 明日を拓く, 119 巻, 79-91, 2019 年

Examining Stigmatization of Leather Industry: By Focusing on the Labor Forms of Dalits and Buraku, Findas International Conference Series 4. Examining Stigmatization

of Leather Industry: By Focusing on the Leather Forms of Dalits and Buraku, (4), 3-16, 2020

部落出身者のハワイ・北米移民, 部落解放, 797号, 21-31, 2020年

生政治と同和行政・人権行政, 部落解放研究, 214号, 4-25, 2021年

日本の門付け芸・放浪芸, 地球の音楽, 96-101, 2022年

狭山事件と狭山裁判闘争の60年, 講座 近現代の部落問題 第三巻 現代の部落問題, 33-66, 2022年

被差別部落という装置と原国家 - - 側置される外部, 『「論争」の文体 - - 日本資本主義と統治装置, 131-171, 2023年

部落解放にかかわる5つの論点, 福音と世界, 77巻3号, 6-11, 2022年

部落解放運動と 人権 , 日本史研究, 729号, 18-32, 2023年

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 友常勉	4. 巻 6
2. 論文標題 Laziness, Sabotage, and Outlaws: Hisabetuburaku in Post-Subaltern Studies	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 FINDAS International Conference Series	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 友常勉	4. 巻 77
2. 論文標題 「部落解放にかかわる5つの論点」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 友常勉	4. 巻 214
2. 論文標題 生政治と同和行政・人権行政	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 4, 25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 友常勉	4. 巻 797
2. 論文標題 部落出身者のハワイ・北米移民	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 21, 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomotsune, Tsutomu	4. 巻 4
2. 論文標題 Examining Stigmatization of Leather Industry: By Focusing on the Labor Forms of Dalits and Buraku	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Findas International Conference Series 4	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 友常勉	4. 巻 119
2. 論文標題 インド・アグラの靴・履物産業とチャマール	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明日を拓く	6. 最初と最後の頁 79 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友常勉	4. 巻 729号
2. 論文標題 部落解放運動と 人権	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 18 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友常勉	4. 巻 第5期第2巻3号、
2. 論文標題 商品の反ラブソディックな実在論とラブソディックな革命論 井上康・崎山政毅『マルクスと商品語』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情況	6. 最初と最後の頁 180 195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsutomu Tomotsune	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 Making Heterogeneous Space: Land Development and the Proletarianization of Urban Underclass in Post War Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Japanese Sociology,	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Tsutomu Tomotsune
2. 発表標題 Laziness, Sabotage, and Outlaws: Hisabetuburaku in Post-Subaltern Studies
3. 学会等名 Findas International Conference, The Minority Issues in Asia: The Process for Multicultural Coexistence (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 友常勉
2. 発表標題 問題提起と問題の所在
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会国際学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tsutomu Tomotsune
2. 発表標題 Buraku Immigrants and Internment camp, Engineering
3. 学会等名 Throwing Lifelines across Borderlines: A Community Symposium on Critical Nikkei Studies
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 友常勉
2. 発表標題 部落出身者のハワイ・北米移民
3. 学会等名 日本社会の地域差別, 日本社会におけるサバルタン研究: 東アジアの疎通と相生, 国際会議, 韓国外国語大学校, 口頭(一般), オンライン開催, 2021年(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomotsune, Tsutomu
2. 発表標題 Examining Labor Forms of Dalits and Buraku
3. 学会等名 Findas International Conference
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 友常勉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 33
3. 書名 「狭山事件と狭山裁判闘争の60年」「狭山事件と狭山裁判闘争の60年」 第三巻 現代の部落問題	

1. 著者名 友常勉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 24
3. 書名 「BLM, AAPI, アメリカ革命」『ブラック・ライブズ・マターから学ぶ アメリカからグローバル世界へ』	



1. 著者名 友常勉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 航思社	5. 総ページ数 400
3. 書名 夢と爆弾 サバルタンの表現と闘争	

1. 著者名 友常勉	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 40
3. 書名 被差別部落という装置と原国家 - - 側置される外部, 『「論争」の文体 - - 日本資本主義と統治装置	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Findas International Conference Series 4 <a href="http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/archives/2728">http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/archives/2728</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------